

平成29年度

県立水戸第三高等学校自己評価表

目指す学校像		豊かな教養に充ち、心身ともに健やかで主体的に社会に貢献できる人材を育成する学校。				
昨年度の成果と課題		本年度の重点項目		重点目標	達成状況	
<p>○国公立・難関私立大合格者数を増やすために進路指導部を中心に3年間を通して、各学年で努力して生徒の自己実現に努めたい。また学校の様子を内外に公開して広報活動の推進を図る。</p> <p>○「文武両道」を更に推進し、きめ細かな教科指導や進学指導に積極的に取り組むと同時に、部活動加入者を増やし学校を活性化することで、豊かな心と健やかな身体の育成及び自主的・実践的な活動意欲の喚起に努めたい。</p> <p>○課題達成に向けて、更に、学校を1つの組織体とする機能的な運営を目指す必要がある。</p>	<p>確かな学力と学習習慣の定着化 教員の授業改善・授業力向上推進</p>	<p>・主体的に学習するために、予習を柱として授業かず復習となるような自宅学習の習慣化の指導に努める。 ・校内研修を充実させるとともに、校外研修へ参加しやすい校内体制を整備し、授業の改善と授業力向上を図る。 ・生徒の進路希望を実現できる教育課程及び日課等の検討を行う。</p>	<p>・習熟度別、分野別課外の充実を図り、生徒の学力に応じたきめ細かい指導を通して学習意欲を喚起させ、進路実現に結びつける。 ・進路だよりを定期的に発行し、早い段階から外部情報や本校の取り組みを知らせることによって進路意識を高揚させる。 ・インターンシップや近隣教育機関と交流する機会を数多く設け、社会との関わりを深めさせることによって職業観・勤労観を養う。</p> <p>・自主的に校則・ルールを守り、自ら教室環境整備等の生活環境の改善を行えるよう、生徒会等との協働、及び他分掌・各学年との協力のもと進める。 ・内規・校則・ルール、指導手順等の整備・見直しを行い、「三高スタンダード」を確立させて、新任者でも指導がしやすい環境を整える。</p> <p>・部活動への積極的な参加を促し、文武両道の精神のもと、部活・進学の両立を図り、各大会での上位入賞を目指す。 ・生徒会役員のリーダーシップを促し、ホームルーム、生徒会活動、学校行事等の活性化に努める。 ・部活動の活性化を図るために、特色選抜入試を軌道にのせる。</p> <p>・HPや広報誌を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果及び特色等を積極的に情報発信や学校公開を行い、保護者や地域住民等への周知・理解を図る。 ・学校説明会の実施内容の実施方針や方法を工夫し、本校の魅力や特色をより広く伝える。 ・家政科生徒の活躍の場を広げると共に、家政科理解推進のために、課題研究や日頃の取り組みを文化祭・校内文化発表会等において発表する。 ・学校公開等を通し、本校の教育活動への取り組みを、保護者や地域住民へ周知する。 ・学年通信・学級通信などで、学校の様子、生徒の様子等を保護者に伝え、本校の教育活動への理解・協力を促す。 ・音楽科において、小中学生のための音楽教室や体験レッスンを行うことにより地域に音楽科の存在をアピールする。</p>	B		
	<p>生徒の実態に合った進路指導の充実</p>	<p>【生徒】自主的に、生徒間で行動できるように育てる。 【教員】指導の徹底を図れる環境づくりを行う。</p>				
	<p>部活動・特別活動の充実</p>	<p>・HPや広報誌を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果及び特色等を積極的に情報発信や学校公開を行い、保護者や地域住民等への周知・理解を図る。 ・学校説明会の実施内容の実施方針や方法を工夫し、本校の魅力や特色をより広く伝える。 ・家政科生徒の活躍の場を広げると共に、家政科理解推進のために、課題研究や日頃の取り組みを文化祭・校内文化発表会等において発表する。 ・学校公開等を通し、本校の教育活動への取り組みを、保護者や地域住民へ周知する。 ・学年通信・学級通信などで、学校の様子、生徒の様子等を保護者に伝え、本校の教育活動への理解・協力を促す。 ・音楽科において、小中学生のための音楽教室や体験レッスンを行うことにより地域に音楽科の存在をアピールする。</p>				
	<p>広報活動の推進と充実を図る。(音楽科・家庭科・各学年も含む)</p>	<p>・自主的に校則・ルールを守り、自ら教室環境整備等の生活環境の改善を行えるよう、生徒会等との協働、及び他分掌・各学年との協力のもと進める。 ・内規・校則・ルール、指導手順等の整備・見直しを行い、「三高スタンダード」を確立させて、新任者でも指導がしやすい環境を整える。</p>				
		具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題
教科指導	<p>1年については基礎学力の定着をはかり、2、3年は、基礎学力をさらに発展させ、大学入試等自ら定めた目標を実現できる応用力・実践力を身につけさせる。</p>	<p>・家庭学習時間を確保させるために週末課題のほか平日にも課題を実施する。 ・積極的な授業の取り組み、疑問点の解消、将来の目標を見据えた学習計画の実践をすすめる。 ・早朝、SHR、昼休み、放課後等の時間を利用して小テスト、課外授業、質問時間の機会を設け、学力の養成を図る。 ・曜日バランスを考慮し、授業時間を確保する。 ・インタラクティブフォーラムやプリティッシュヒルズでの英語研修など国際理解に関する活動に積極的に参加する。</p>	B	B	<p>・各学習施策は順調に行われている。大学入試等の変化に伴い、各検定への受検者および合格者も増えている。 ・家庭での学習習慣の確立について不十分と感じられるので、強調していきたい。 ・学習環境、特に施設面での美化に努めることはもちろん、改善・更新に取り組んでいく必要を感じている。</p>	
	<p>自ら目標を立て、目標を達成するために互いに努力し高め合う生徒を育成する。</p>	<p>・英検・家庭技術検定等を実施し、合格者数を伸ばす。 ・声楽・ピアノ・管楽器・日本音楽の各公開講座を実施し、生徒の技術向上と、向上心の育成を図る。 ・学習環境の美化に努め、生活しやすいホームルームをつくる。</p>	A			
教科	国語	<p>確かな学力の定着を図る。</p>	<p>・小テストを利用し、基礎学力の定着を図る。 ・理解の不十分な生徒には個別指導を実施する。</p>	A	B	<p>・記述式問題への対応(大学入学共通テスト対策を含む)を考える。 ・家庭学習を活用し、予習・復習に取り組ませる</p>
		<p>家庭学習習慣の定着を図る。</p>	<p>・週末課題を利用し家庭学習の習慣をつける。 ・予習・復習に積極的に取り組ませる。</p>	B		
		<p>生徒の進路希望に応じた学力向上を図るとともに、教員の授業力向上に努める。</p>	<p>・課外授業を実施し、生徒の進路実現に向けた学力の向上を図る。 ・授業展開の工夫・充実に努める。</p>	A		
		<p>生徒の進路の希望に対応できる学力の充実に努める。</p>	<p>・副教材、プリント学習による積極的効果的な授業を展開、生徒の主体的な学習を促し学習の習慣化を図る。 ・長期休業中だけでなく、早朝や休日課外等で基礎学力の充実とともに問題演習に取り組む。</p>	A		
	地歴公民	<p>生徒の社会認識を深めさせるために、授業の研究と実践に努める。</p>	<p>・新聞、映像教材、インターネット等を積極的に活用するなど授業の改善と授業力向上に努める。 ・発問等の工夫により、興味関心を喚起する授業に努める。</p>	A	B	<p>・学習教材の一層の充実をはかる。 ・アクティブラーニングを取り入れた授業の研究をする。</p>
		<p>歴史・社会・文化に関する興味や認識を高めるための工夫する。</p>	<p>・修学旅行の事前学習としては、日本史・地理・現代社会等の授業において沖縄についての学習を行う。</p>	B		
		<p>基礎学力の向上を図る。</p>	<p>・小テスト等を実施して生徒の理解度を定期的に把握する。 ・理解度の不足する生徒には再指導を実施する。</p>	A		
		<p>家庭学習の定着に努める。</p>	<p>・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。</p>	B		
	数学	<p>基礎学力があり、数学に対して興味関心の高い生徒に対しては、さらに理解度を高める指導をする。</p>	<p>・課題を実施し、興味関心を持続させ高いレベルまで到達させる。</p>	B	B	<p>・休日課外について見直し、生徒の学力向上につなげたい。</p>
		<p>基礎学力が低い生徒に対しては、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>・小テスト等を実施して生徒の理解度を定期的に把握する。 ・理解度の不足する生徒には再指導を実施する。</p>	B		

		具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題			
教科	理科	自然科学に対する興味関心を喚起する。	・実験、資料等の活用により授業を展開し、健全な自然観を持たせる。 ・校内及び校外研修を充実させ、教科指導力の向上を図る。	A B	B	・授業公開等の研修を充実させ、生徒の学習意欲の向上につなげたい。			
		基礎学力の定着を図る。	・授業時の質問、小テスト等を利用して学習の理解度を確認する。 ・不十分な生徒に対し、補講・追試等をおこない、定着を図る。	B B					
		学力の向上に努め、生徒の進路希望実現を図る。	・問題集の活用及び課外の実施により、大学受験等に相当する実力養成に努める。 ・生徒の進路希望を実現できる教育課程の検討を行う。	A B					
		保健体育	体力の向上(身体能力)を図る。	・基礎体力の増進のために体力テストの結果等を利用して、主体的に授業に臨ませる。			B	B	・スポーツテストの結果や副教材をより効率的に活用し、基礎体力の向上や理解を深める必要がある。
			生涯スポーツにつながる、知識や運動の習慣を身に付ける。	・副教材を利用し、各種目のルールや特性等の理解を深め、スポーツのあり方を考えさせ、実践する態度を養う。			B		
			心身の健康の保持増進を図る。	・定期考査を実施し、※ヘルスプロモーションの理念を理解させる。(※自らの健康をコントロールし改善できるようにする活動)			A		
	芸術	音楽	よい発声法で楽曲のイメージを持って表現する。	・腹式呼吸、発声法等の基本を身に付けさせる。	A	A	・教材を吟味し、集中した学習を心がけた結果、能率の上がった授業ができた。 また生涯を通して音楽を楽しませる心情を養うことに意識を置き、教授した結果授業に興味を持って臨んでいた。		
			音楽文化についての理解を深め様式感を持って豊かな表現能力を伸ばす。	・読譜力を身に付けさせ芸術歌曲の歌詞、曲想を理解させ個性豊かな表現が出来るようにする。	A				
			芸術活動を通して豊かな情操や協力を養う。	・楽器(ギター・リコーダー・ハンドベル等)の奏法を習得しソロ及びアンサンブルの楽しみを体感する。また箏・三味線をととして日本音楽の特長をとらえる。	A				
	芸術	美術	美術を学習する意義と基礎技術向上に努める。	・用具用材に対する意識を持たせることで主体的な態度を養う。	B	B	・美術は個人差の大きい教科であり、個に応じた指導の充実が課題である。引き続き、効果的な課題演習の検討を重ねるとともに、実施を通して各生徒の問題の把握と指導の改善に努めたい。		
				・全体指導及び個別指導を行いきめ細かな指導を行う。	B				
				・ワークシートを活用し、効果的な課題演習を実施する。	B				
				・作品提出の徹底を図る。	B				
				・積極的に展覧会を鑑賞する。	B				
			自発的に創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。	・感性を豊かにするためにそれぞれ美術、書道の分野だけでなく音楽・書道的内容を取り入れて興味を持たせる。 ・作品を大切にすることを養う。	B B				
		書道	古典学習の意義と基礎技術向上に努める。	・用具用材に対する意識づけを行う。	B			B	・学習に対する取り組み姿勢はできているが、さらに上のレベルに引き上げようとする、生徒はやらされていると感じるようである。積極的な学習活動をめざし、様々な方策を講じてはいるが、意識づけが難しいのが現状である。
				・全体指導及び個別指導においてきめ細かな指導を行う。	B				
				・作品整理ノートを十分に活用する。	B				
				・作品提出の徹底を図る。	B				
				・積極的に展覧会を鑑賞し情操を養う。	B				
			創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。	・感性を豊かにするためにそれぞれ美術、書道分野だけでなく美術的内容を取り入れて興味を持たせる。 ・作品を大切にすることを養う。	B B				
	英語	基礎学力の向上定着を図るため、授業力向上を目指す。	・小テスト、週末課題の実施により、学習の理解度を把握する。	A	A	・教材の選定に十分配慮する。 ・模試の分析と苦手分野の補補を行う。 ・外部試験変更に対する対応を考え、実施する。			
			・学習内容の定着の為に質問の時間を設け、プリント等教材の工夫改善を図る。	A					
			外国語の学習を通じて自国の文化等に対する理解を深める。	・テキストや副読本を読むことにより、文化の違いを理解させる。 ・ALTの先生の授業等を通じて、習慣の違いを学ぶ。			B A		
自分の考えを積極的に発表しようとするに努める。			・スピーチ・コンテストへの参加を積極的に促し、英語を話し理解しようとする態度を養成する。 ・各種検定試験(英検、GTEC)への参加を促し、各学年ごとの達成目標を設け指導する。	B A					
より高い目標に近づぐために努力させる。			・大学入試におけるリスニングテストへの対応のために授業の中にリスニング教材を位置付ける。	A					
家庭			家庭生活を主体的に営む態度を育てる。	・生活に必要な知識と技術を習得させるための教材を検討し、授業に生かす。 ・「一日家事体験」や「ホームプロジェクト」等の実践活動を行う。			B A	B	・授業内容の精選と実態に即した教材の検討したい。 ・生徒の実態に即した資格取得のあり方、実施の検討をしたい。 ・進路実現に向けた適切な家政分野の情報を提供する。
	課題解決力向上のためのコミュニケーション力・プレゼンテーション力を育成する。	・実験実習を数多く導入し、まとめとしてのレポート提出をさせる。また、発表会を行う。 ・授業や学校行事等の学校生活全般において数多くの体験学習を行う。		A A					
	多様な進路希望の実現を図る。	・将来の進路に結びついた資格取得を行う。 ・家政分野の情報を提供する。	B B						

		具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題
教科	情報	情報機器の基本操作を身に付ける。	・受講者全員がブラインドタッチで入力できるようにする。	B	B	・情報社会に積極的に参画する態度を育てる。 ・情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。
		基本的なソフトウェアの操作法を身に付ける。	・ネットワーク上のプリンタやドライブを利用できるようにする。	B		
		情報社会に主体的に参画する態度を身に付ける。	・ワードプロセッサ、表計算ソフトウェア、プレゼンテーション等のアプリケーションソフトウェアの操作ができるようにする。	B		
		情報社会に主体的に参画する態度を身に付ける。	・ネットワークを利用する上での注意事項や法律を知り、安全に利用できるようにする。 ・積極的に研修し、多様な事例に対する考察ができるようにする。	B		
教務	校内研修を充実させ、授業力の向上に努める。	・AL型授業をはじめとした校内研修を充実させ、授業の改善と授業力向上を図る。	B	B	・授業の改善と授業力向上のための校内研修を充実させる。また、新学習指導要領への対応と教育課程編成等の検討を併せて行う。	
	各部、各学年及び各教科が効率的に機能するよう全職員の共通理解を図る。	・各学年・部・学科の意見・要望を集約しながら資料を共有し、校務の「みえる化」を図る。	A			
	教育課程を円滑に推進する。	・生徒の進路希望を実現できる教育課程及び日課等の検討を行う。	A			
	広報活動の推進と充実を図る。	・HP等を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果及び特色等を積極的に情報発信する。 ・学校公開等を通し、本校の教育活動への取り組みを保護者や地域住民へ周知する。	B			
特別活動	部活動を通じて、学校を活性化させる。	・運動部・文化部それぞれ5部以上で全国大会・国体・関東大会出場を目指す。	B	B	・適切なLHRの時間の使い方を考える必要がある。 ・特色選抜入試を部活動の活性化につなげていきたい。	
		・対外試合等を積極的にを行い、技術の向上を図る。	A			
		・特色選抜入学者が部活動や学校行事の中心的存在として活動する。	B			
	生徒会を中心にして、生徒間の連帯感を高め、生徒の意識高揚を図る。	・LHRを有効に活用して、クラス独自の活動を充実させる。	C			
		・生徒会活動の円滑な運営を支援する。	A			
		・各種委員会の活動を掌握し、学校行事や事業を活性化させるとともに、本校生としての意識を高める。 ・生徒の利用しやすい購買部の運営につとめる。	B			
生徒指導	生徒が三高生としてのプライドを持ち、自主的にルールを守るよう、自己形成を図る。	・高校生としての基本的な生活習慣、規範意識の育成を授業・HRのみならず、学校行事や部活動、生徒会・委員会活動等の学校の諸活動全体の中で自主的に培え ・教室環境の整備・改善を協力して行うことにより、落ち着いた環境の中で望ましい人間関係の構築をさせていく。	B	B	・学年・保護者との連携を強化し、指導環境を整える。	
	教職員間の共通理解を深め、共通の指導体制を構築する。	・年度始めにおける内規・校則等の周知を図るとともに、指導基準・手順等の見直しを必要に応じて行い、「三高スタンダード」の確立を行う。 ・生徒の実態把握(被害調査、アルバイト許可、自転車交通関係、携帯電話使用等)を担当・学年と連携して行い、問題行動の防止に努める。	B			
	保護者や外部関係機関との連携による協力関係を構築し、学校以外の視点を指導に活かす。	・PTA総会や各学年PTA集会等において、積極的に生徒の実情の報告、意見交換を行い、大人や社会の視点からの指導を行う協力を呼びかける。 ・水戸警察署との連携により、生徒の何気ない身なり・行動でも不審者等の誘因になっていることを知らせ、自己の行動を改めるきっかけにさせる。	B			
	生徒の進路希望の実現を図る。	・生徒の進路希望に応じ習熟度別・分野別課外を実施し、生徒の学習意欲を引き出す。 ・進路相談の充実を図る。	A			
進路指導	学年・保護者との緊密な連携を図る。	・進路だよりを通して、進路等における情報等を正確に提供し、保護者との信頼関係を深める。	B	B	・早い段階での進路決定を促していく。 ・課外への参加率を向上させるための手立てを検討する。 ・教員の役割分担を明確にした上で、生徒の学力や進路希望の応じた指導を行っていく。	
	効果的な小論文指導を検討する。	・生徒の進路希望に合った指導方法を検討・調整する。	B			
	進路に対する意識の高揚を図る。	・各学年に応じた進路行事(大学見学会、大学模擬授業、進路講演会)を実施し、生徒の意識を高める。 ・インターンシップ(看護師体験など)や様々な社会体験を促し、進路に対する意識を高める。	A			
	進路情報の充実を図る。	・インターネットを積極的に活用し、効果的かつ効率的な進路指導を図る。	B			
		・進路の手引きを作成し、その効果的な活用を進める。	B			
		・定期的な進路希望調査を実施し、生徒の実態把握に努める。	A			
	保健(健康)管理・指導 教育相談	保健管理・指導を徹底し、健やかな心身と生きる力を育成する。	・定例の健康診断の他に、保健室来室生徒の観察指導の充実を図る。			A
・「保健講話」、「保健だより」等による健康管理予防の啓発に努める。			A			
・校内美化に努め、清掃活動の一層の徹底を図る。			A			
進路希望が実現できるように奨学金等で支援する。		・様々な奨学金について周知させ、必要な生徒に有効利用してもらう。	A			
		・進路実現のためにも、学習環境を最適なものにする。	B			

	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題
図書	図書館の利用を促進し、書籍の管理につとめる。	・図書館だより、新着図書案内を定期的に出し、情報提供をする。	A	A	・図書館便り・新着図書案内・夏季の小論文のための図書案内など充実した情報提供を行った。継続する。 ・ビブリオバトル、校外研修会の参加を積極的に行った。継続する。 ・図書館利用の仕方について、年度当初の新任者ガイダンスの折に説明する時間を設けてもらう。(図書館利用についての冊子、1年生図書オリエンテーションの折に新任者に呼びかけているが、徹底を図るため。) ・1年生放送委員に放送機器の使い方を指導し、学校行事、学年集会準備に当たらせる。(今までは、演劇部中心であったが、学年によって人数にばらつきができ、放送委員の顧問が演劇部の顧問になるとは限らないから。)
		・小論文コーナーの利用を促すため、夏季に校内、県立図書館の小論文図書の紹介についての資料を職員、生徒全員に配付する。	A		
		・未返却図書への催促を定期的に行い、図書利用の回転率を上げる。	A		
	館内環境を整え、快適な読書空間と学習の場を提供する。	・各教科の専門的意見を取り入れ、蔵書・各種資料の整理に努める。	B		
		・館内を常時清潔に保ち、読書や学習する環境を整える。	A		
		・早期学習・居残り学習のためあるいは長期休業中に開館し、生徒が利用できるようにする。	A		
	図書委員会の活性化を図る。	・図書購入・カウンター当番・読書会・校外の研修会等に積極的に参加させる。	A		
	視聴覚機器の整理と拡充に努める。	・新しい機器の使い方など、技術指導のサービスを意欲的に行う。	A		
放送委員会の活性化と定着を図る。	・現在使用できる機器の保管場所・使用法を放送委員を中心に周知させる。	A			
	・各種行事に伴う放送関係の仕事に積極的に関わらせる。	A			
	・放送講習会等に積極的に参加させる。	A			
情報	校内LANの安全性を高めて、利用の促進を図る。	・セキュリティ対策を行い安全性を高める。	B	B	・サーバー管理の徹底・有効活用 の推進を行う。 ・新規校務支援プログラムを完成させる。 ・ホームページ運営の工夫をはかりたい。
		・共有しているプリンタやファイルの維持管理を行う。	A		
	情報活用能力や情報モラルの向上を図る。	・生徒の個人情報漏洩等の事故防止を図る。	B		
	広報活動に協力する。	・ウェブページ(ホームページ)を活用し、本校の教育活動の取り組み状況や成果等を積極的に情報発信する。	B		
迅速・正確な成績処理に努める。	・成績処理ソフトの改良を行い、生徒の進路実現の一助となる成績データ等の提供を行う。	B			
渉外	PTA総会の保護者の出席率を向上させる。	・日程や授業参観のあり方を工夫する。	B	A	・PTA役員および各種委員会との連携を密に図り、協力体制を構築する。
		・PTA総会の内容を工夫し、効率的運営を図る。	A		
	保護者や地域との緊密な連携を図る。	・PTA各種委員会の活性化を図る。 ・保護者や地域の意見要望を検討し、広報誌などを通してその対応を図るとともに、理解、協力を得られるように努める。	A		
音楽科	公開レッスンを実施し、生徒の技術向上と向上心の育成を図る。また、音楽科の啓蒙を図る。	・学校説明会や体験レッスンの内容をより充実させ、生徒募集や広報活動に役立てる。	A	B	・各種コンクールに積極的に参加し優秀な成績を収めた。 ・音楽科のピーアールを工夫し、定員割れを防ぎたい。
		・ピアノ・声楽・管楽器・日本音楽の分野で年に3～4回実施し生徒一人一人に向上心を持たせる。	A		
		・各種コンクールへの積極的な参加を促す。	A		
	校外活動としてのボランティア演奏の充実を図り、音楽の果たす役割を知る。	・3年間の集大成である卒業演奏会を成功に導く。 ・病院、老健施設、中学校等への出前演奏を行い、外部との交流を図りボランティア活動を充実させる。	A		
	時代の流れに即し、音楽科にふさわしい進路指導の実現を目指す。	・各音楽大学の入試傾向の把握と大学との連携を図り、早い時期に大学説明会(オープンキャンパス)などに参加させる。 ・他教科や学年との連携を図り進路に対応した特別指導を行う。	B		
家政科	生徒の技術向上のため、資格取得の充実に努める	・文部科学省認定全国高等学校家庭科技術検定被服製作・食物調理の三冠王を目標にすることにより1級の資格を取得させる。	A	A	・各種コンクールへの応募を推進していきたい。
		いばらきものづくり教育フェアへの参加をする。	A		
		各種コンクール(被服関係・食物関係)への参加を促す。	B		
		家庭クラブとして老人介護施設の訪問や県家庭クラブ関係行事への参加をさせる。	A		
	校外活動への積極的な参加を図る。	・茨城大学教育学部附属幼稚園との交流などに積極的に参加させる。	A		
進路に対応した学習指導や課外の実施、面接指導を行う。		A			
1学年	基本的な生活習慣を確立させ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・挨拶を励行し、言葉遣いを身につけさせる。	B	A	・次年度も引き続き基本的な生活習慣の指導に取り組む。 ・学習習慣を確立する。 ・大学見学などを通して進路意識を向上させる。 ・次年度は文化祭・修学旅行など大きな学校行事があるので積極的な参加を促す。
		・遅刻の防止、時間厳守を徹底する。	A		
		・机上の整理や清掃の徹底を行い、学習環境を整備する。	B		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につける。	・授業開始時間の厳守、チャイムまでの着席を徹底する。	B		
		・予習復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保させる。	B		
		・授業に対して主体的に取り組ませる。	B		
	自己の可能性を探りながら卒業後の進路についての目的意識をもたせ、後悔しない文理選択および進路選択ができるように指導する。	・自己の適性を把握させ、進路に関する情報を収集させると共に、保護者に対しても情報発信して理解を求める。	B		
		・生徒との面談や保護者との面談を通して、適切な進路助言を行う。	A		
・進路ガイダンスや進路講演会を実施し、積極的にオープンキャンパスや模擬授業等を体験させる。		A			
特別活動への積極的な参加を促す。	・部活動・生徒会への積極的な参加を促す。	A			

	具体的目標	具体的方策	評価	総合評価	次年度への主な課題
2学年	集団の一員としての自覚を持たせ、集団生活のマナーを身につけさせる。	挨拶を励行し、TPOに応じた言葉遣いや行動ができるよう生徒の自覚を高める。	A	B	・家庭学習など、自主的な学習時間を十分に確保させ、予習・授業・復習という学習習慣を確立させる。 ・授業への取り組みを、受動的な姿勢から主体的・能動的なものにさせる。 ・進路に関する情報は充分に生徒にも保護者にも発信するとともに、自ら情報を収集スキルと姿勢を身につけさせる。
		生活面での、中だるみを防止する指導に努める。	B		
		集団行動を着実にできるように、時間厳守の指導に努める。	A		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につけさせる。	授業開始時間の厳守、チャイムまでの着席を徹底する。	B		
		予習復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保させる。	B		
		授業に対して積極的に取り組ませる。	B		
	自己の可能性を最大限に生かす進路選択ができるように指導する。	自己の適性を把握させ、進路に関する情報を収集させる。	B		
		大学模擬授業や進路ガイダンス等を通して、進路意識を高める指導をする。	A		
インターンシップや近隣教育機関と交流を積極的に行い、社会との関わりを深めさせ、また職業観・勤労観を養う。		B			
特別活動への積極的な参加を促す。	部活動や学校行事の中心的存在として活動する。	A			
3学年	社会に出てからも通用する言葉遣いや行動・身だしなみなどの自己管理能力を身に付けさせる。	挨拶や言葉遣い、さらには自己表現力を身につけさせる。	B	B	・授業や学年集会等でも生徒が発表する機会を設定し、面接やプレゼンに対応できる能力・自己表現力等を身につけさせたい。
		社会生活におけるマナーの大切さを理解させ実践させる。	B		
		遅刻の防止や時間厳守を徹底させる。	B		
	授業を第一とする学習姿勢と家庭学習の習慣化を確立させる。	教材や指導法を工夫し、授業を大切にする姿勢をさらに強く持たせる。	B		
		生徒一人一人が、各自の課題を自覚して学習するようにさせる。	B		
		予習・授業・復習・分からないところの質問という学習サイクルを身に付けさせる。	B		
	3年間の集大成としての進路実現を、一人一人に達成させる。	面談の機会を多くし、一人一人の状況を確実に把握し、情報提供する。	B		
		早朝・放課後・長期休業・休日等の課外授業を充実させる。	B		
面接指導や小論文指導などにおいて、全職員の協力を要請する。		B			
特別活動への積極的な参加を促し、人間的な成長を図る。	これまでの経験を生かして、リーダー・模範として活動する。	B			

評価基準：A(目標以上に達成できた)、B(ほぼ目標通りに達成できた)、C(目標まで達成することができなかった)の3段階